

会議の名称	第31期第8回社会教育委員会会議
開催日時	平成22年11月10日（水） 14時00分から 16時00分まで
開催場所	教育委員会室
出席者	西邨定実議長、青野明子委員、荒田英道委員、石塚美穂委員、 稲田義治委員、上田卓是委員、高木統禧委員、谷間倫子委員 [事務局] 社会教育部／藤井次長 中央図書館／大本館長、竹本課長 社会教育青少年課／武田課長、岡田課長代理、川口係長 北田主任 文化財課／鈴江課長 スポーツ振興課／藤丸主幹
欠席者	植松千代美副議長、岩谷誠委員、小川温子委員、藤井泰雄委員
案件名	・家庭教育推進事業について
提出された資料等の名称	【資料】 ・家庭教育推進事業について（第7回社会教育委員会会議要録 抜粋）
決定事項	家庭教育の推進について様々な方面から話をして、方向性を見つけていく。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録等の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	0人
所管部署（事務局）	社会教育部社会教育青少年課

審 議 内 容

西邨議長 ただいまから第31期第8回枚方市社会教育委員会議を開催します。

委員の皆さん方におかれましては、公私ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。

開会に先立ちまして、事務局からご挨拶をいただきたいと思います。

〈事務局〉 本日はお忙しい中、社会教育委員会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度の社会教育委員会議におきましては、家庭教育推進事業につきまして議論をさせていただいております。本日につきましても、前回と同様に、活発な議論をお願い申し上げまして、開催に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西邨議長 ありがとうございます。

では、事務局より本日の委員の出席状況報告をお願いします。

〈事務局〉 本日の委員の出席状況ですが、所用のため青野委員が少し遅れてこられるとお聞きしております。

なお、植松副議長、岩谷委員、小川委員、藤井委員は所用のため欠席ですので、本日、委員12人中、8人の出席となります。過半数の出席がありますので、枚方市社会教育委員会議運営要綱第5条により会議が成立していることをご報告いたします。

西邨議長 それでは本日の資料の確認と11月に人事異動があり、事務局に異動があったと聞いておりますので、その説明も合わせてお願いしたいと思います。

(資料の確認並びに、人事異動について事務局から報告)

西邨議長 前回の会議では今後の進め方として、家庭教育のあり方について各委員からご意見をいただき、調査研究の報告書として集約することになったと思っております。

事務局で家庭教育推進事業について、第7回の抜粋としてまとめていただいておりますので、事務局のほうから説明をお願いします。

〈事務局〉 前回、各委員の皆様からいろんな立場でご意見をいただきました。今回、そのご意見を事務局のほうで大きなテーマに沿って、四つに分類させていただきました。

まず一点目が「家庭教育の本質について」です。現実的な問題として、家庭だけで子どもを育てられない状況になっているのではないかと。地域の子どもは地域で育てていくということが言われておりますが、核家族化の中でしんどくなっている親が多くなっている。保護者のサポートをすることを社会全体としてどういうふうと考えていくべきかについて、たくさんご意見をいただきました。

二点目は、「親と子どもの関係について」です。一つは親子の交流が大事というようなこととお話がいろいろ出たかと思います。その中には、一緒にいろんな体験をしてみるということもありましたし、また、谷間委員のほうからは、例えば小さな手紙の交換をして、子どもの気持ちを汲み取るとか、親の本音を伝えていくということも良い方法ではないかという紹介があったかと思います。

また一方、家庭環境の複雑化や離婚などで、家庭の貧困、経済状況の悪化等によって、子育て自体を追い詰めていく。そのことが、虐待に結びついていくようなケースが増えていることについても意見が出されたように思います。

三点目は、「学校と子どもの関係について」です。本日は岩谷委員と小川委員はご欠席ですが、学校に来ている子どもを通してのご意見をいただいたかと思います。子どものSOSのサインを見逃さないことが現場の先生に求められているということと、さまざまな家庭の闇を抱える子どもたちを受けとめ、声かけによって元気になれるような学校が求められているとのことでした。

四点目は、「家庭教育推進事業のあり方について」です。家庭教育について議論していきますと、現実的な社会問題や虐待の問題などをどうするのかという中で、どういう主催事業が効果があるのかということを考えます。そういう福祉的な議論もあるんですが、教育として家庭教育をどのように考えていくかということについて、少しまとめてみました。

以上、大変雑駁ですが、前回の委員の発言をテーマごとに分類し、イメージをまとめさせていただきました。

西邨議長 今、説明をいただきましたが、事務局としては、この大きな四つのテーマに沿って委員からご意見をいただいて、それを今後まとめていきたいと思っております。

今後の進め方をもう一度確認しておきたいんですが、今後の会議

の日程は、今日を含めて3回と聞いております。前回、今日、3月の分を、今年度の家庭教育のテーマとしてまとめていくという考え方でよろしいでしょうか。

〈事務局〉 はい。

西邨議長 わかりました。

前回の会議の時に、家庭教育とはということで、いろいろと皆さん方の立場から、順次、ご意見をお伺いしました。

それを今回は大きな柱で四つのテーマに分けていただきました。少し具体化していただいたので、話を進める上で目標が見えたかなと思います。お手元に第7回会議の抜粋ということで、資料を出していただいていますので、各テーマごとにご意見をいただきたいと思います。

まず、各項目を四つに分けていただいています。この部分についていかがでしょうか。一つずつ入るまでに項目について、少し議論していただきたいと思います。

取っかかりでどんな話をしているのか、各委員のほうも難しいと思いますので、全般的に発言のしやすい項目からでも、話をさせていただけるとありがたいです。

それでは、まず私のほうから話をさせていただきます。2番目に「親と子どもの関係について」という項目に、私の専門分野と言ったらおかしいんですが、スポーツ関係のことを少し取り上げていただいています。

私は、体育協会全体の活動をさせていただいているんですが、その中で私はソフトボール競技を担当しています。最近その中で、うれしいことがありました。新しく参加してくださったお子さん方のチームなんですが、そのチーム名の由来を聞きますと、アルファベットで4文字なんですが、各地区の町名の頭文字でつくっておられるんです。

「どうしてそのお子さん方がこのチームで新たに参加されたんですか」と聞くと、実は子どもたちがサッカーをやっている、そこに付き添いで来ている親御さんたちが、一緒にソフトボールをやろうという話になったんです。

それで、今度はお父さんの試合のときに子どもたちが付いてきているんです。プレーを大人と子どもとは一緒にできないんですが、グラウンドの片隅でお父さんと子どもたちがキャッチボールをしたりしている。我々がやるソフトボールの競技で、一つの地域のチームができたことは、大変うれしかったんです。

当然、勝負事ですから、負けるより勝つほうがいいんですが、競

技の上達よりも、みんなで楽しくやろうという雰囲気が、チームにあるので、私が願うお手本のようなチームが出てきたのが大変うれしかったです。

やはり、子どもたちと親との間で、コミュニケーションがとれたらと思っています。

上田委員

枚方市内において、幼稚園児とか小学生の低学年が、地域の福祉施設を訪問するというようなことがあるのでしょうか。今の小さい子どもはおじいちゃん、おばあちゃんを知らない家庭が多いですよね。そういう世代をこえた交流が、お互いに益するところが多いのではないかと思うのです。そういう切り口で考えてみたんですが、いかがなものでしょうか。

西邨議長

そういう取り組みをなさっているという事例を聞かれたことはありますか。

〈事務局〉

職業体験が、そうした事例としてあると思います。

保育所が、中学生を職業体験で受け入れて、実際に、赤ちゃんのおむつを替えたりというのは、聞いています。

少し補足ですが、社会福祉協議会が各校区に、校区福祉委員会を組織化されています。この校区福祉委員会が主催して、地域の子どもと高齢者との交流機会ということで、いろんな事業を展開される例は、報告を受けています。

また、枚方市内には子ども会があります。すべての子ども会の活動を把握できる状態には、残念ながらなっていませんが、その子ども会が主体となって、地域の老人会との交流機会を持っている例も聞いております。

上田委員

受け入れる側のお年寄りのほうにも、笑顔が出て元気になるという効果も考えられますので、もし余り普及してないのであればと思って質問させていただきました。

〈事務局〉

先ほど説明させていただきましたのは、一つの事例としてですので、すべての校区でそういうことが行われているということではありません。その重要性を、今回、ご指摘いただいております。必要なことではないかと思っております。

西邨議長

ほかに何か気づかれたことなど、お話ししていただけたらと思います。

高木委員	<p>子どもの家庭教育を難しく考えることはないし、親たる者そう考えてはいけないと思います。幼児期、低学年時に親子間、外での挨拶や礼儀、自分がされて嫌なことを人にはしない等、対内外的な基本マナーを日頃から毎日の食事の世話と同様、繰り返し子どもに言い聞かせ、事あるごとに褒め、叱り、諭すといったしつけをごく当たり前に心がければ、親子間の信頼感、絆の保持はもちろん、子どもは普通に社会に受け入れられるはずです。</p> <p>植木やペットも肥料、エサの世話だけではうまく育ちません。いわんや、大事な我が子のしつけです。子どもの心の畑の徳育の種まき、管理、手入れは親の義務、責任以前の問題で、いずれ巣立つ子どもに対する親のごく自然な叱咤激励、思いやり、愛情は早めの心尽くしの餞別と考えたらどうでしょう。そして、子育てに時間の有無は関係ないと思います。親のほんの一言、無言の眼差し、無言の背中だけで、子どもはすべてを理解します。この意味では、子育ては親にとって難しいというより、怖いものと言えるのかもしれませんが。</p>
西邨議長	<p>高木委員が、家庭教育というのは、そんなに難しく考えなくてもいいと言っておられますが、私もそのとおりだと思います。</p> <p>委員の中にはお母さんもおいでになるとありますが、これが家庭教育だと思いながらやっておられることはないのではないかと思います。</p> <p>その辺はいかがでしょうか。</p>
谷間委員	<p>そういう思いはないですね。うちは父親が不在なことが多いので、近くにいるおばあちゃんに頑張ってもらっていて、母子家庭みたいな感じです。</p>
高木委員	<p>本当の母子家庭とは少し事情が違うと思うんですが。</p>
谷間委員	<p>小学校の運動会にも参加したことがないんです。</p>
西邨議長	<p>お子さんがどのように思っておられるかというのは、気になる場所ですね。</p>
谷間委員	<p>一緒にいれるのは、お盆とお正月だけという感じですね。</p>
西邨議長	<p>石塚委員のところはいかがですか。</p>
石塚委員	<p>うちは30才を頭に3人子どもがおりまして、一番下も今年の春から社会人になりました。振り返ってみますと、うちは父親の存在</p>

が大きかったように思います。

それはスポーツを通じてです。娘とはスキーを、息子たちとは野球を通じていつも活動しておりました。中学・高校・大学まで野球をしてまして、今も大学野球に携わっています。ですので、野球やスキーの共通の話題がありましたので、今でも父親とは、私以上に、親密な関係かもしれません。

これまで、家庭教育ということ余り難しくは考えてきませんでした。父親の姿、親の姿を見せること、それから、一緒にご飯を食べること、そういう普通の生活の中で、子どもたちの性格なり、資質も育まれていったのではないかなと思っています。その結果、どうであったかは自信がありませんが。

本日の朝日新聞に、「赤ちゃんの力」という記事がありました。赤ちゃんに触れる機会のないお子様が多くなってきており、赤ちゃんの笑顔や柔らかさや匂い、それを見ていると自分もこうやって大事に育てられたんだという思いも伝わってくるので、子どもたちにとっていろんな影響力があるのではないかということが書いてありました。私もそう思います。優しい気持ちも育ちますし、思いやりの心も育つような気がします。

また、私は自治会の役員をしておりまして、今まで活発ではなかったんですが、今年、新たに老人会が立ち上がりまして、子ども会と一緒に何かをするような動きがあります。

上田委員           それは素晴らしいことですよ。

石塚委員           この冬も、おもちつき大会をするのですが、今までは子ども会だけでやっていたのを、今回は住民の方が誰でも参加できるようにしたんです。特にお年寄りの方々に、ご指導していただくことで、和やかな会になるのではないかと期待しています。

夏祭りや区民体育祭も盛り上がりましてし、良い地域づくりができてきているような気がします。日曜日にも防災訓練で、消防署の方に来ていただいて、放水などの訓練をしていただいたんですが、子どももたくさん参加して、本当に良い雰囲気でした。自分たちで地域を守っていこうという中で、お互いに顔なじみにもなり、声かけもできるようになっています。地域も一つの単位として、役に立つのではないかと強く感じました。

西邨議長           そういう地域でのコミュニケーションは素晴らしいですね。

上田委員           今のご発言に関連して、私は集合住宅に住んでいるのですが、マンションの入り口あたりに、クリスマスのデコレーションを施し

て、夕方からクリスマス会をやったんです。親子がたくさん参加してくれて、良いコミュニティ活動になったと思っています。季節、季節の行事を開催し、親子ともども参加できるような場を広げていくということが大事だと思います。

西邨議長

大阪市内では、マンションがポツンと建つと、そこだけが孤島のようになって、近隣との交流が気薄になっているという話を地元の人に聞いたことがあります。もちろん自治会にも入りません。地元の方と連携が出来れば、昔のように地域のコミュニケーションも育まれると思います。

上田委員

子ども達は仲間がいることを非常に喜ぶんですが、親は、逆に集合住宅なら、隣つき合いをしなくていいということで入られる方も多いようです。非常に寂しいことですが。

稲田委員

私は今、5歳と3歳の子どもがいます。青年会議所のメンバーは、ほとんど家庭や子どもを持つ世代で、組織としても教育問題や青少年健全育成に重きを置いています。

現在、「わんぱく相撲」を行っています。相撲連盟に委託しているんですが、僕たちは国技という相撲を通じて、勝ち負けでなく、勝っても負けても相手を思いやる心や礼儀礼節を学ぶという趣旨でやっています。ただ、相撲で負けた子どもの親から、子どもが頭が痛いと言っているの、医者に行くがタクシー代は出るのか、病院代は出るのかと言ったような電話もあつたりするんです。保険には入っているのですが、現在はこうしたことが増えているのが現実です。

仕事が大変で、そういうところに構ってられない親御さんとしては、お子さんがキレたり、荒れたりすることに対して、どうアプローチをしていけばいいのかというところを、いつも会議で話しています。

この前、櫻井よしこさんの講演会で、「自分の親を老人ホームに入れて、子供どもには一人部屋を与える。子どもはそれを見ているから、自分が大人になったときに同じことをする」と言っておられました。なるほどと思いました。

親の行動を子どもは必ず見ていると思うので、背中を見せて育てることの大切さを感じています。

高木委員

子どもの性格形成の最たる要因は、親の生活態度、家庭環境にあると言ったら過言でしょうか。「けなされて育つと、子どもは人を



けなすようになる」で始まるドロシー・ロー・ノルト博士の詩「親は子の鏡」の通りだと思います。親はこの鏡であり、鑑です。

子どもは見てるんですよね。短気で、キレたり、荒れたりするというのは、全部、親のまねですよ。だって、生まれたときは何も無いんだから。

子ども以上に親を教育しなくてはいけないと思います。そのためには、親同士の交流の中で、自分たちの子育てを見つめ直すという機会を、より多くつくるのが先決です。

稲田委員 「怒る」と「叱る」の違いもわからないような親では困るんです。また、親の髪形や服装とかも、子どもには影響すると思いますが、価値観が広がり過ぎているので、そこが一番問題とも思います。

荒田委員 私も、家庭教育は、高木委員がおっしゃたように、単純なものだと思います。

難しい問題ほど単純化しないと解決しないし、結果は悪いです。経営学で言いますと、戦略なんて後からついてくるものです。最初から、来年の経済を予想してもなかなかその通りにはいきません。ましてや5年先の戦略なんて。どういう会社にしたいかということが大事なんです。

それと同じことが、家庭教育にも言えると思います。どういう子どもに育てたいか、こういう大人になってほしいというということです。これを抜きにして家庭教育はないと思います。

従って、そんなに難しいことではないんです。嘘をつかない、人に迷惑をかけない、何かしてもらったら、ありがとうという感謝の気持ちを持つ。この三つだけでもやれば、どれだけすてきな家庭が生まれることかと思います。

朝起きてお父さんやお母さんに「おはよう」と挨拶もできないような子どもを育てて何が家庭教育ですか。本質的なところからきちんと積み上げたら、ひとりで子どもは順応していくんです。それを、ああでもない、こうでもないといひねくり回すから、余計、子どもがおかしくなるんです。

この辺でもう一度、人の気持ちを感じ取れるような、そういう優しい気持ちを持てる子どもを育てていくということを大事にしていくべきだと思います。

西邨議長 今、挨拶の話が出てきましたが、私、枚方から大阪市内のほうに通勤をしております、国道1号線を通っていきますと、守口市界隈に大手の電気会社の本社があります。そこが、大きなのぼり上げて、玄関先で「挨拶をしましょう」と言いながら立っておられる

んです。それを見て驚きました。

荒田委員 私は、大学病院に1カ月入院したことがありますがお医者さんや看護師さんに挨拶をしても、返事が返ってきたのは半分なかったです。

上田委員 お医者さんですらそうなんですよ。私は、「子どもの安全見守り隊」をやっています、子どもたちにこちらから挨拶をすると、素直に、「おはよう」「おっちゃんありがとう」とか言ってくれるんです。ところが大人は、集合住宅の廊下を歩いていて挨拶をしても、10人のうち3人ぐらいしか返事を返してくれないんです。悲しくなりますよね。荒田委員のおっしゃった、「普通に生活すれば子は育つ」と言うのはまさにそのとおりですが、普通に生活できない親がいかに多いかということです。基本的な挨拶ができていないことを見ますと、自分の子どもが何かしかりできたら褒めてあげるといふことさえも、できなくなっているような気がしてならないです。だから、挨拶運動も、大いに展開すると効果もあるのではないかと思います。

西邨議長 上田委員がおっしゃっておられたように、今の親御さんたちに「普通の生活」をしてもらうには、一体どうしたらよいでしょうか。

高木委員 そんな親御さんには、運動会、お祭り、イベントといった地域住民との交流、親睦の機会を通じて我が子のしつけ、教育の必要性を現場で徐々に自覚、認識していただくしかないと思います。また、地域の自治会、団体などから当局にイベントなどの協力依頼があった場合は、当局もこれまで以上に賛同と啓発を惜しまないようにするのも、その方法かと思います。

〈事務局〉 子どもが挨拶をしないのは、親が子どもに挨拶をしていないからです。親が言わないのに、子どもが言うはずがないです。

西邨議長 いろんな話をしていると、その辺をどうするかが一番難しそうですね。ただ、そこを取り組まないといけないと思います。子どもは素直ですから。

また、資料の4番目の家庭教育推進事業のあり方についての中に一つ気にかかることがあります。学校教育と家庭教育とのマッチングという部分なのですが、市のほうにお伺いすると、家庭教育と学校教育は、事業としてはあまりリンクしていないということだそう

です。

学校教育と家庭教育は、個別にいろいろな手だてをしていただいています。この二つが協力して物事を考えられないのかと思うんです。

上田委員　　今の小学校、中学校では学校参観は行われているのでしょうか。その辺の状況はどうですか。何曜日に行われるのでしょうか。

谷間委員　　学年ごとに曜日は違いますが、行われています。でも、参加者は、学年が上になるほど減っています。また、参観が終わった後に、クラス懇談もありますが、ほとんど残られないです。また、土曜日参観というのもありまして、そこには父親が多く来られています。

上田委員　　参加できる時間、日を増やして、できるだけ多くの親御さんに来てもらって、小学校に接してもらうことによって、子どもの世界が分かるのではないかと思うのですが。

荒田委員　　私はそういう体験をしたことがありませんので、よく分かりませんが、友達の奥さんが中学校の教諭をしまして、子どもよりも親御さんのほうがはるかに扱いにくいということを聞くことがあります。

学校参観日では、親が雑談をしたり、ビデオカメラを持ち込んで撮るので、授業にならないみたいです。

西邨議長　　うちの家内も学校の教員をしておりますので、今の話は、大なり小なりあるようです。とりあえず、雑談というのはあるようです。でも、うちの家内は注意をすと言っていました。

青野委員、大学での生徒さんと、親御さんの関係はいかがですか。

青野委員　　前回の会議で少しお話はさせてもらいましたが、年に1回、保護者懇談会をやっています。

西邨議長　　大学でも保護者懇談会があるんですか。

青野委員　　実施しています。

娘の大学でも行ってまして、保護者として行きましたが、その大学では、年2回懇談会がありました。

西邨議長　　昔は大学ではなかったですね。

青野委員       そうですね。娘が行っていた関西大学は、学生が全国から来るので、遠い地方の保護者の方も1回だけは来られるみたいです。

高木委員       学生に保護者の同伴を求めるのは、確認のため主に中退、退学、進級に関する時ですがね。

青野委員       それとは違います。  
呼び出しではなくて、全員の保護者に連絡をして、希望者が来られるというものです。

西邨議長       懇談会に来られる人数は少ないんですか。

青野委員       少ないです。ただ、学校と子どもと家庭の関係を見過ごせなくなっているので、懇談会は必要であるというのが、教員共通の意見です。

荒田委員       会社の入社式でも、お父さんかお母さんを招待するという会社もあります。それは会社の実態を知ってもらって、家庭ぐるみで会社に対する理解をしてもらうという意図のようです。

荒田委員       親だけでなく、社会全体がそうでしょう。例えば、就職活動をするのにいろんなことを調査して、適正な会社を見つけ出す必要があるでしょうか。適正というのは、必死になって仕事をすれば、それがいつの間にか適正になると思うんです。

上田委員       また、就職試験での挨拶の仕方、面接の受け方などは、高校、大学での日常生活で学ばないといけないと思います。日常の生活が本当の意味での教育なんですよね。それが全くできてないということです。

西邨議長       お話を聞いていたりますます深みにはまってきますし、難しい会議になってしまいました。やはり、挨拶の事など、本日欠席委員の学校長の先生方にもご意見をいただいて、学校の現状についてつけ加えていただければと思います。

本当に難しい話で、うまく議論が進まなくて申し訳ないと思います。今後の日程を事務局のほうからお願いします。

〈事務局〉       3月上旬で、考えております。

西邨議長       本日欠席の他の委員の方とも調整していただいて、またご連絡いただければと思います。

〈事務局〉       冒頭、議長のほうからお話しいただきましたように、前回と今回にいただいたご意見を、まとめさせていただきますので、それに基づいて、次回会議を行っていただけたらと思います。

西邨議長       集約していただくのは大変かと思いますが、よろしく願いします。

                  それでは、本日の案件は以上で終わらせていただきたいと思います。長時間にわたりましてありがとうございました。次回は、来年の3月になりますが、よろしく願いします。